

明 渡 し  
静 聴  
靈 交  
献 身  
奉 仕

日本クリスチャン・アシュラム連盟

# 祈 禱 生 活

Japan United Christian Ashrams. 秋季号

発行所  
東京都中野区  
江原町3-19-12  
江古田教会気付

編集人  
海老沢 宣 道

発行人  
高瀬 恒 徳

定価1部 30円

カナダの霊的指導者

## ゴールドン・ハンター師を迎えて

全国八地区 リレー・アシュラム

連盟は昨秋以来、祈りのうちに今秋八地区のために良い指導者を与えられるよう神に求めていたが、主はわれらの祈りに答えて、ジョーンズ博士の後継者の一人アシュラム国際委員会の委員長、カナダのみならず、米国内各地のアシュラム



ムにも有力な指導をされているゴールドン・ハンター師をお送り下さる事になった。何たる祝福、何たる喜びか。

### 師のプロフィール

師は一九二四年オンタリオに生まれ、今年四十九才の働き盛り、トロントのエマズエル大学神学部を

出て直ちにカナダ合同教会の按手を受け、農村鉱山地区に四二の集会を持つ巡回宣教師となる。のちトロント市西教会の牧師となり、一千人を収容する大会堂を建築、十七年間牧会に当る傍、公園広場でカナダにおけるドライブイン礼拝を開始した最初の人。昨年までの数年間は超教派的な信仰運動の総主事をつとめ、昨秋九月ウイロデル市ニュートンブルック合同教会(一五〇年の歴史あり)に牧師として招かる。毎日曜日礼拝は会衆が多いため三回守られているという。

カナダ合同教会内国伝道委員長、世界アシュラム連盟の最高委員、カナダ信仰運動の中央委員などの要職にある。

早くからスタンレー・ジョーンズ博士のアシュラムに参加、与えられた霊の賜物をカナダのみならず、北米各地のアシュラムで分か

合う奉仕をしておられる。

今秋日本八地区のアシュラムを指導された帰途には、フィリピンに立寄り、マニラ市その他で初めてアシュラムを催すことになっている。

尚、同師は来る十一月からジョーンズ博士の後継者として世界アシュラムを指導するため専任の伝道者となることに決定している。

このような靈力に溢れた師をわが国に迎えわが愛する兄弟姉妹と共に、天来の恵みに浴することのできる幸いを感謝したい。

### 師を知る人々

同師は日本に初めて来られるのだが、奥牧師(三軒茶屋教会)と神学生時代からの親友であり、彼の英語は判りやすいとのこと。また中路牧師(扇町教会)は昨年六月エルサレムの世界アシュラム大会で親交の時を持ちその熱のこもった講演を何度も聞いています。更にもう一人クリスチャン新聞の記事で同師の来日を知り、ぜひお目にかかりたいと連絡して来た岩倉みどり姉(相模大野教会員)がある。姉はIBC留学生としてトロントに滞在中、ハンター師の教えを受け、非常に尊敬しておられるとのこと。

八地区の日程

九月二日(土) 夕刻、羽田到着

二三日(日) 午後、歓迎夕食会

夜、東京信徒大会(淀橋)

二四日(月) 午後、九州アシユラム

福岡市、西南学院、山の家にて二泊

二七日(木) 午後、四国アシユラム

松山市二番町、済美会館にて二泊

三〇日(日) 朝拝、松山番町教会

夕拝、広島流川教会

十月一日(月) 午後、中国アシユラム

広島工大山荘にて、二泊

四日(木) 午後、関西アシユラム

有島温泉やまにて、二泊

六日(土) 夜、神戸信徒大会

七日(日) 朝拝、大阪扇町教会

夕拝、京都

八日(月) 休養

九日(火) 午後、関東アシユラム

青梅古里、福音の家にて二泊

十一日(木) 午後、中部アシユラム

恵那市大井町、雀のお宿に二泊

十三日(土) 夜、名古屋一麦教会

十四日(日) 朝拝、同所

夕拝、江古田教会

十五日(月) 休養

十六日(火) 城北一日アシユラム

(池ノ上教会)

十七日(水) 城南一日アシユラム

(碑文谷教会)

十八日(木) 午後、道南アシユラム

函館市、千歳教会にて二泊

二一日(日) 朝拝、函館福音教会

夕刻、感謝送別会

(青学会館・東京)

「アシユラムに

接して」(三)

山根 可 式

(5) 神の国の体験と献身

「だれでも新しく生れなければ、神の国を見ることはできない」。

「だれでも、水と霊とから生れなければ、神の国にはいることはできない。肉から生れる者は肉であり、霊から生れる者は霊である」。

(ヨハネ三ノ三〜五)。『霊の誕生日いつですか』『はい、昭和十三年二月二十三日午前四時二十三分です。』まず、神の国の体験はここから始った。

しかし、アシユラムに接して感謝することは「風は思いのままに吹く。あなたはその音を聞くが、それがどこからきて、どこへ行くかは知らない、霊から生れる者もみな、それと同じである」、との主の御言葉を、身をもって理解できたことである。「明け満し」「聖霊の啓導」など、主にある愛と自由の生涯を、この御言葉は正しく物語っている。以上は直接私の事実証しである。

少し論議になるが、神の国は神

御自身が、神の義と愛と平和をもって、永遠に統治される、いわゆる天国である。では何処にあるのか、いつ出現するのかと、主イエスの弟子さえも質問した。しかし、主イエスの答は「あなたがたのただ中にあるのだ」(ルカ一七ノ二一)であった。神の国はここから始る霊的王国であるが、やがてキリストの再臨、新天地に於て現実に宇宙世界は変り見るようになる。

しかし、私たちが今体験するのは、ルカ一七章二一節である。これを一言で言えば、聖霊によってキリストを心の中に迎え宿すことである。内住されたキリストは永遠の命となり、今までの自己支配の生活が文字通り「今より我は主なり」と神支配に変わり、死んでから天国へ入るのでなく、その時から自分の中に神の国が始まり、十字架の血潮が通い出し、キリストの愛と真理が働き出す。そして、

何もその平和を乱すことができないなくなり、多くの先輩殉教者の心が受けとれる。そして主が言われた「あなたの宝のある所(天国)に心もある」ようになる。このように神の国の体験は確実である。しかし求めない人は体験も成長も

見ることができないが、渴いて求める人は、日々新しく進歩しキリストにある豊かさを味う。

どのようにして体験できるのか? 「主の御前に悔い改めない。そして、それぞれ罪を赦していただくために、イエス、キリストの名によってバプテスマを受けなさい。そうすれば、賜物として聖霊を受けられるのです。なぜなら、この約束は……私たちの神である主がお召しになる人々に与えられているからです」(使徒行伝二ノ三八〜三九)。

また、キリストを内住し神の国を体験した人々が受ける大きな恩恵は、自分の無知にも弱さにも関係なく「汝はわがものなり」とのキリストの愛の御声である。霊の目が開かれて見ると、十字架のままである主が心にうつる。そして、主とともにある永遠の生涯にはいった涙の感謝と、どんなことでもさせていだきますという言葉は魂の底から湧いてくる。同時に古い自分が葬られ、復活の主と共にある新しい生涯が始まる。そして、それが真の献身ということである。ことを主の御霊は教えてくださる。したがって、主の御要求は、神も罪も救も知らないで永遠の滅亡

アシユラムの五大原則

- (一) キリストへの明渡し
- (二) 御言への静聴と立証

に向いつつある全人類に福音を伝え、同じ神の体験へと導き、また、すべての造られたものを救い出す愛の炎が燃え出すことである。たとえ小さい存在でも、このように神の国を体験したものは、伝道者は勿論であるが、それぞれの立場に於て主に仕える喜びを味い、ますます神の国の体験と献身は、高く深くまた広まってゆくであろう。

## アシユラム体験記

函館教会員 増井芳雄

私は過去三回アシユラムに参加した。第一回は昨年スタンレーさんを迎えての函館アシユラム、第二回は昨年十月高瀬恒徳師を迎えての道南地区アシユラムであった。

私は現在六十八歳になるが、昭和の初め日本メソジスト教会で受洗して以来四十数年間いろいろなキリスト運動に参加してきたがアシユラムほど感動的な集会に接したことはない。それは、あの愛情に満ちたスタレーさんの霊的な人格に圧倒されたからであろう。博士に接し、「印度途上のキリスト」を読んだ往時の感激を肌で感じ、心の深奥にキリストの姿を刻みこまれたからである。しかし、そのスタンレーさんも今は天に召された。私は昨年のアシユラムの「立証の時」に十分間立証させてもらったが、その前半はスタンレーさんに接した感激を述べた。今再びその感激と悲しみを心にかみしめてこの体験記を書いている。

アシユラムは教派を超越して信徒が心を開き、聖霊の導きにより、聖言により、聖なるコイノニアの実現を目指すものである。また、アシユラムはキリスト中心の教会への奉仕と伝道と献身を促す福音主義運動である。だからアシユラムは教派でもなければ教会でもない。「イエスは主である」と告白する全ての教会と信徒による教会と信徒のための運動である。現在ある教団では内部が神学論争で分裂、混乱し、再建に苦悩している。全体が一つ心になって和解し真のコイノニアが生れるのはいつの日か？それはアシユラムの精神がその教団に受容され聖霊による一致が実現した時であろう。昨年の道南アシユラムの最後の日「立証の時」であったと記憶しているが、感激の余り異言を語る婦人も現れ、初代聖会における聖霊降臨の昔が偲ばれた。ここに聖霊による一致の可能性が実証された。「主は一つ、信仰は一つ、バプテスマは一つ」との聖言の真理が信徒の心の中に甦ったのである。「イエスはわれらの主である」との世界アシユラムの標語こそ世界最大のメッセージである。

### 第四回道南アシユラムに寄せて

エペソ書六章一七―二〇節は、神の

言への応答としての祈へと展開し、信徒の共同戦線が形成されることを示唆している。祈りの交流こそ勝利を目指した教会の躍動する姿である。

「キリストは私たちの平和である」

(エペソ二ノ一四)「キリストの血による革命こそ真の平和革命」である。全てのキリスト者よ。この平和革命のために共同戦線を結成しようではないか。

第三回道南アシユラム(七月十八・九日)において、中路牧師の正直な人柄に接し、熱心な霊的指導を受けた私たち道南の委員は、今ハンター師を迎えての第四回アシユラムの準備をしている。毎月祈り会をもちながら、万全を期して起教派のPR・プログラムも決定、ジョーンズ博士記念事業への献金も近く本部に届けられる筈、道南アシユラムは教会の派陶的敵意を十字架にかけて滅し、キリストによる和解が生れつつある。アシユラム精神が全国の教会に滲透するならば、聖霊の創造する「教会の一致」が実現し、真のコイノニアが生れるであろう。アシユラムの「祈りの輪」を全国的ネットワークとして福音宣教の使命を果したいものである。主の聖名を讚美して。

「たといそうでなくとも」の著者  
安利淑夫妻による  
日本従断伝道(北海道―沖縄)  
九月二十日～十月十五日

▼東京大会 9月27日～30日  
会場・大久保・淀橋 教会

(三) 聖霊の啓導と充満  
(四) 教会への奉仕と伝道  
(五) 神の国の体験と献身

### 地区ニユース

#### ジョーンズ博士 記念信徒大会

―松山で盛会に開催―

既報の如く去六月二十四日(日)午後松山市二番町の新築完成した済美会館で、四国委員会主催の下、ジョーンズ博士の記念の信徒大会が開かれ、宇都宮委員長以下のよい祈りの準備の結果、各教会から百名以上の出席者があり、連盟理事長の高瀬師がわざわざ招かれて「博士の信仰に学ぶ」と題し講演、今治アシユラムの榎本牧師も霊味溢れる説教をされ一同大いに恵まれ、今秋ハンター師を迎えてのアシユラムと博士記念事業への協力方法を決定した。

#### 第三回道南アシユラム

中路嶋雄師を迎えて

去る七月十八・九両日、来道中の中路牧師(大阪扇町)の指導の下に一泊夏期アシユラムを開催いたしました。参加する者約五〇名、少い時で三五名程静かな温かい雰囲気集いでした。参加教会は教団五、フォースクエヤーで、今度は聖公会、バプテスマから参加がありませんでした。中路先生のお人柄が好感を以て一同に受容られたと思えます。三十日にハンター師のアシユラムの相談会をします。尚ジョーンズ募金については近日中にお送りします。(白川鄭二委員長、報告)

### ジョーンズ博士を記念して 三大事業への協力を 全国の兄弟姉に訴える

世界クリスチャン・アシユラムの創始者スタンレー・ジョーンズ博士はインドと同様に日本を愛し、戦後十回も全国を巡回伝道され、アシユラムと訪問伝道とを推進して下さったが、既報の如く去る一月二十五日八十九才で召天された。

博士の指導に感謝の意を表わしたいとの願いが、世界各地に起り、北米の連盟は博士が希望していられた仕事の中から左記三種の計画を記念事業として実行することに決定、予算六〇万ドルを計上した。

わが日本連盟もこの計画を最善と考え、全国アシユラムの兄弟たちに訴え、既に各地区から続々と献金が寄せられつつあるが、尚目標までは可成り遠い。明年末のべ切までに完遂いたしたく、同志の祈りを願う。

#### ▼第一計画 世界アシユラム・センターをガリラヤ湖畔に建設。

兄弟スタンレーは十年前からガリラヤ湖畔の西岸テベリアスからカペナウムへ向って北へ約二哩のペニエルにあるYMCAのチャペルと食堂に目をつけ、ここに宿舍と集会室を建設、世界各地からの信徒が静聴と祈りと聖書研究に一週間或は一ヶ月滞在できるようにしたいというもの。

#### ▼第二計画 未開地への運動費

現在アシユラムは北米において毎年三十地区で開かれ六千人が参加している。今年は北米全州で開く計画とか。海外ではインドを初め日本、北欧数ヶ国、南米二ヶ国だけで、未開催の国々に指導者を送り運動を促進したい。

#### ▼第三計画 インドのセンターと病院の増築

世界最初のアシユラムが博士とインド人牧師、英人宣教師の三人で初められたインドのサト・タル(七湖)には毎年一ヶ月の青年アシユラムが開かれているが、食堂が貧弱なので、それを新築したい。また博士がインド滞在中よく入院され、今年一月にはそこで最後の息を取られたクララ・スウェイソンの病院の手術室を完備したい。

#### 日本の目標・僅か一万ドル

われらは右の三大事業に対し一応最低一万ドル(二七〇万円)を明年末までに集めることにした。同志はよろしく年一回或は夏冬二回分納でも特別の献金を実行し、博士の遺志を継承することに参加せられるよう期待する。

#### 記念事業献金報告(一)

▼十万円 鈴木留蔵(習志野)

ジョーンズ伝道後続委員会

▼五万円 池ノ上キリスト教会

▼三万円 山根可式(池ノ上)

▼二万八千円 大阪朝禱会・記念会

▼二万円 高瀬恒徳(聖テモテ)

小林静江( )

▼一万二千五百円 道南地区委員会

▼二万円 大石 嗣郎(碑文谷)

矢島あさの(練馬)

海老沢宣道(江古田)

三室 泰平(早稲田)

小堀 福一(小松川)

萱沼 孝文(松沢)

村上 東(郡山)

郡山教会(東北)

荒井 光夫(豊島区)

須摩教会(兵庫)

五味 明子(西川口)

▼五千元 小林 彰(深川)

大橋 芳仁(池ノ上)

稲尾 三郎(辻堂)

川俣教会(東北)

沢田 赴(大森)

東京ガリラヤの集い

岡田 実(新宿西)

大城 俊彦(明石市)

村上富美、清子(郡山)

▼四千元 吉間 勝志(田園調布)

松村 栄子(西川口)

渡辺 晋(静岡)

鳴子教会(東北)

土山 牧羔(堺)

林原 コエ(水 沢)

カンパランド東小金井教会

高橋 文子(いわき)

佐藤 恒夫(小松川)

▼二千元 森トミ子(富士見町) 西村

安子(川崎) 佐川久光ゆき(郡山)

高橋トキ(鳴子) 定家都志男(月寒)

北原松尾(郡山) 加藤薫子(江古田)

▼一千五百円 代官山教会

▼一千元 桜岡和子(新宿西) 海老沢

すま(江古田) 大谷保行(厚木) 若

林節子(扇町) 亀山きよ(桜台) 目

加田綾子(聖テモテ) 佐藤堯(赤羽)

池田清泉(福音) 黒沢源之助(郡山)

阿内三男(郡山) 猪巻陽子(郡山)

福田功(浦和別所) 田中ハナ(郡山)

内田武士(郡山) 帆足誠(国立) 山本

恵太郎(練馬区) 桐生喜代(江古田)

▼五百円 為藤と志げ(江古田) 中野

米子(江古田)

▼二百円 高橋まり(江古田) 宗像利

女(江古田)

▼六六〇円 合計金 五七〇、四〇〇円

以上は献金依頼文を発表して半年足

らずに早くも右の通り尊い献金が寄せ

られ、感謝に訴えませんか。

尚未参加の方にお勧め下さって、目

標を達成いたしたく存じます。

▼送金方法 成可く振替東京五〇二五

九(名義、江古田教会)へ通信欄に

「ジョーンズ博士記念事業献金」と

明記して御払込み下さい。

#### 最新刊

スタンレー述、海老沢訳

一日アシユラムの守り方 (30円)

各教会単位で開く時の参考書参加者一同に必読願いたい文書